科目区分：教科及び教科の指導用に関する科目（中学校），保健体育科教育法２

授業評価・授業研究報告

保健体育講座・上田敏子

１．授業の基本情報

保健体育科教育法２は，教科及び教科の指導用に関する科目であり、保健体育科教育法のうち，保健科教育について学習する授業である。授業は単独で行っており，登録学生は教育学部中等教育（保健体育）および小学校サブコースの学生計 14 名であった。

２．授業評価・授業研究の内容

授業の 15 回目に回答数は９名であった。アンケート調査結果の一部を表１にまとめる。

Q1 知識・理解：教育と教職に関する確かな知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している。

Q2 技能：教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。

Q3 思考・判断・表現：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について，専門的な知見をもとに，その対応方策を理論に基づいて総合的に考え，その過程や結果を適切に表現することができる。

Q4 興味・関心・意欲，態度：教師としての使命感や責任感を持ち，自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ，自主的に社会に貢献しようとする。

表１　アンケート結果

	とてもそう思う／とても理解できた	ある程度そう思う／まあ理解できた
Q1 知識・理解	6（67%）	3(33%)
Q2 技能	5（56%）	4（44%）
Q3 思考・判断・表現	5（56%）	4（44%）
Q4 興味・関心等	6（67%）	3(33%)
Q5 目標、内容の理解	7（78%）	2（22%）
Q6 保健の評価方法	5（56%）	4（44%）
Q7 保健の様々な学習方法	7（78%）	2（22%）

その結果，Q1～Q4 については「とてもそう思う」および「ある程度そう思う」という肯定的な回答のみであり、教育学部のＤＰに対応した内容が実践できていることが明らかとなった。

次に、独自に調査した３項目についてだが、中学校保健分野および高校の科目保健の目標や内容、評価の方法については、「とても理解できた」「まあ理解できた」との回答のみであった。これらの内容は授業の前半に講義した内容であり、対面授業のなかで十分な理解が得られていたといえる。今年度は特に教科書を中心に授業を進めており、教科の基礎的な理解を十分深められたと考えられる。

また、「保健の様々な学習方法」については、「とても理解できた」が約８割を占めた。これは、授業の中盤から日本学校保健会が発行する保健学習に関する冊子等から様々な保健の学習方法を自ら体験したことが背景にあると考えられる。具体的には、ブレインストーミングや事例を用いたディスカッションや工夫したワークシートなど様々な方法を紹介し、理解を深められたと考えられる。

３．まとめ

本授業では，中学校および高等学校の保健科教育について教科書（中学校・高等学校保健科教育法　改訂版，2020）を中心に授業を進めた。そのなかで保健科教育に求められている課題や展望について学んだ上で、実際の学習方法の工夫などについて授業の中盤まで学習することができた。授業の後半は、感染症対策のため、遠隔非同期型の授業が主となったが、模擬授業を実施するなど、限られた機会のなかで学生の指導力を高めることができたと考えれる。一方、ICT（情報通信技術）を用いた指導が十分にできていなかったので、来年度はロイロノートを活用した指導法等を実践できるよう準備を進めていきたい。